

	方剂名	効能	生薬組成
	書籍	主治および証	病機 方意
理気剤 降気剤 9			
	<p>せんぷくかたいしゃせきとう 旋覆花代赭石湯</p>	<p>降逆化痰・益気和胃</p>	<p>旋覆花 9g・人参 6g・生姜 9g・代赭石 15g・炙甘草 6g・半夏 9g・大棗 4g 水煎し服用する。</p>
	<p>傷寒論</p>	<p><主治> 胃虚痰阻、胃気上逆 心窩部が硬く痞える、持続する暖気、悪心、嘔吐、反胃、舌質が淡、舌苔が白滑～白膩、脈が弦で無力などを呈す。 <病機> 胃気虚と痰濁内阻により、胃気が和降できなくなり上逆した状態である。 胃気上逆により、悪心、嘔吐、頻繁な暖気（噯気）、甚だしいと反胃（朝食暮吐、暮食朝吐、食入即吐）が生じる。胃中に痰濁があるので、心窩部が硬く痞える（心下痞鞭）、舌苔が白滑～白膩、脈が弦を呈する。舌質が淡、脈が無力は、胃気虚を示している。 <方意> 胃虚を補い、痰濁を化して気逆を下降させる。 主薬は下気消痰、降逆止噯の旋覆花と、重鎮衝逆の代赭石で胃気上逆を鎮め、降逆祛痰、消痰散結の半夏と温胃化痰、止嘔の生姜が補佐する。補気益胃の人参と補虚和中の炙甘草・大棗で胃気を扶助する。全体で胃気を健常にし痰濁を除き胃気を和降させる。 <参考> 生姜瀉心湯証にも「心下痞鞭、噯気」などがみられるが、寒熱互結、食滯などによる胃気逆であり、食臭のある暖気（噯気）や、水気下泄の腹中雷鳴下痢がみられる。 本方（旋覆花代赭石湯）は、生姜瀉心湯から乾姜・黄芩・黄連を除いて旋覆花・代赭石を加えたものに相当するが、寒熱互結がないので乾姜・黄芩・黄連は不要であり、胃気上逆が甚だしいので旋覆花・代赭石を加えているのである。</p>	